

2022 年度
自己点検・評価報告書

神戸海星女子学院大学

2023 年 6 月

2022 年度 自己点検・評価報告書

目 次

はじめに	1
1 教育分野	1
1) 教育の質的向上	
2) 学修成果の可視化及び情報公開の促進	
3) Society 5.0 への対応	
4) グローバル化の推進	
5) キリスト教小規模大学としての独自性の促進	
6) 学生の社会貢献活動の推進	
7) 円滑な高大接続	
2 学生支援分野	8
1) 退学率減少のための支援体制の強化	
2) 経済的に修学が困難な学生に対する奨学金制度・授業料減免制度の さらなる支援と充実	
3) 学生の満足度の向上	
4) ダイバーシティ化に向けた制度の策定	
5) キャリア支援の強化	
6) 卒業生との連携の構築	
3 研究分野	13
1) 研究環境の整備、推進、評価	
2) 科研費等、競争的研究資金の獲得	
3) 研究成果の社会的還元	
4) 学科横断による学際的研究	
5) 女性のキャリア形成のための研究促進	
4 社会貢献分野	17
1) 社会人学生の受け入れ（大学の教育成果を地域社会に還元）	
2) 生涯学習事業の強化及び推進	
3) ボランティア活動の支援（学生の学修成果を地域社会に還元）	
4) 一般に開かれた講演会等の充実	
5) 地域や産業界の課題に取り組むプロジェクトの推進	
5 大学運営分野	19
1) 内部質保証の推進	
2) 効率的で機動的な組織づくり	
3) 教職員の人事制度の見直し	
4) 財政の健全化と安定的な経営基盤の確立	
5) 教育研究を支える施設・設備の充実	
6) 戦略的広報・情報公開の強化	
7) 同窓会、後援会との関係強化	
おわりに	26

神戸海星女子学院大学
2022 年度 自己点検・評価報告書
(中期計画 2020-2024 中間報告)

はじめに

2020 年以來、コロナ禍のため、大学も新たな対応に追われることとなった。出入り口での検温や消毒、ソーシャル・ディスタンスの確保、パーティションの設置、学生への感染防止のための呼びかけ、感染状況による大学の対応マニュアルの作成、リモート授業実施環境の整備と実施方法の検討などなど、様々な想定外の対応が必要となった。

そのため、2020 年度に策定した中期計画の推進が十分に行われなかったことがあったことは否定できない。2022 年度になってようやく感染状況も改善に向かったので、本年度の自己点検・評価活動は、例年のように各部署で目標を定め、PDCA サイクルを回すというのではなく、中期計画の進捗状況を確認するという形で進めることとした。

中期計画は現代社会の様々な変化に対するキリスト教小規模大学としての対応、学生への多様な支援の充実、教育・研究のさらなる質の向上、社会への貢献、学修成果の可視化、建学の精神に則った大学運営、組織体制、人事制度、財務基盤の整備など、多岐にわたる。中期計画が作成されたのは 2019 年度であり、その後、コロナ禍の中でこれまで想定されていなかった状況が生まれたため、今後変更したり、削除したりせざるを得ない項目もあるが、すべての項目についての点検を行った。

それぞれの項目の担当は、これまでの自己点検・評価委員会での区分を踏襲したため、担当部署が明確でなかったり、重なったりすることもあった。また目標達成度をできる限り数値化することを目指したが、数値化できない項目も少なくなかった。

その中で、真摯に中期計画の進捗状況の確認と見直しを進めることで、中期計画の達成への道筋を明らかにすることができたと思う。

1. 教育分野

人口減少、AI 技術の進化、グローバル化の進展等により急速に変化するこれからの社会に他者と協働しながら貢献することができる人材を育成するために、キリスト教小規模大学の特長を生かした質の高い教育を実践する。

1) 教育の質的向上

(1) ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーとカリキュラムの整合性に関する定期的な点検・評価、改善・向上に向けた取組の実施

〔担当部署：教務委員会〕

・ 2022 年度進捗状況：＊

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

年度末に海星教学調査（学生意識調査）を二学科統一で行うことにより、各方針とそれに則った教育とに係る学部としての傾向を掴み、対策を講じる手立てとしている。また、卒業生アンケート（卒業年次実施）を今後更に活用する。

・事業計画最終目標：＊

- (2) 学修の順次性、専門分野の学問の体系性を考慮したカリキュラムの編成、ナンバリングの実施、カリキュラム・ツリーの作成及びHP等での公開

〔担当部署：教務委員会〕

・2022年度進捗状況：＊

学生が更に履修計画を立てやすいようにナンバリングを検討する。カリキュラム・ツリーは検討中である。

事業計画最終目標：＊

- (3) アクティブ・ラーニングによる授業科目の割合の増加（全科目の7割以上へ）

〔担当部署：教務委員会〕

・2022年度進捗状況：＊

両学科の学びの特性により、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業は多い。シラバスに、海星パーソナリティに関連する学びについて記入を求めているように、アクティブ・ラーニングの取り組みについても記入するよう来年度より依頼し、数値化できるようにする。

・事業計画最終目標：＊

- (4) 学生による授業評価結果の分析・検討、授業改善への利用、学生へのフィードバック

〔担当部署：教務委員会、FD・SD委員会〕

・2022年度進捗状況：＊

各学期の半ばに、学生に対して自由記述式の「授業改善のためのアンケート」を実施し、FD・SD委員会で確認した結果を各教員に配布し、学生には掲示にて報告している。但し、任意の回答としたため、回答率が低かった。

・事業計画最終目標：＊

- (5) FD活動の強化

〔担当部署：FD・SD委員会〕

・2022年度進捗状況：＊

学生による授業評価、および「授業改善のためのアンケート」を実施。また、教員による「授業結果・授業改善報告」、授業公開等を実施。授業改善のための

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ
ー：2022年度にて達成

アンケートは、来年度は全学生に回答してもらい、授業運営に反映させる。

- ・事業計画最終目標：＊

(6) 教育に関する自己点検・評価、改善・向上に向けた取組の実施

〔担当部署：教務委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：＊

大学の現状に合わせ、合理的配慮の教務分担箇所の見直し、ステラ・マリス奨学金（成績優秀者奨学金）の申請条件の再検討など改善に取り組んだ。

- ・事業計画最終目標：＊

(7) 大学院との連携（学生の学びへの意欲向上、授業科目の質的向上）

〔担当部署：教務委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：＊

2022 年度は、2 名が兵庫教育大学大学院（学校教育学）に、1 名が立命館大学（臨床心理学）に進学、2023 年度は 1 名が兵庫教育大学大学院（学校教育学）に進学した。

- ・事業計画最終目標：＊

2) 学修成果の可視化及び情報公開の促進

(1) アセスメント・ポリシーの作成及び HP 等での公開

〔担当部署：大学改革運営会議〕

- ・2022 年度進捗状況：100%

「学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）」を制定し、HP にて公開している。

- ・事業計画最終目標：－

(2) 学修成果の測定を目的とした学生調査の推進

〔担当部署：教務委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：＊

コロナ禍に入り、任意受験としていた学内 TOEIC を、2022 年度より英語観光学科学生は年 2 回受験必須としたほか、授業評価、海星教学調査（学生意識調査）、卒業生アンケートなどを通して、学修成果を確認している。

- ・事業計画最終目標：＊

(3) 卒業生、就職先への意見聴取

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ
－：2022 年度にて達成

〔担当部署：キャリア委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：20%

他学の実施状況を確認した。

2023 年度に 1 年目・3 年目の卒業生に調査を行い、2024 年度に調査結果報告書を作成する計画である。

- ・ 事業計画最終目標：100%

(4) 各部署と企画・IR 室との連携の推進

〔担当部署：企画・IR 室〕

- ・ 2022 年度進捗状況：＊

学修成果の可視化をめぐる各部署と企画・IR 室との連携については、必要に応じて随時行っている。

- ・ 事業計画最終目標：＊

3) Society 5.0 への対応

(1) ICT を利活用した教育の促進

〔担当部署：教務委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：＊

保育・教職分野での ICT を利活用した教育について推進が図られていることを受け、2022 年度より「教育における ICT 活用」（2 年次開講）という科目を設けた。

- ・ 事業計画最終目標：＊

(2) 情報リテラシー科目の内容の見直し及び AI に関する素養を養う科目の開講

〔担当部署：教務委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：＊

現行の「情報リテラシー科目」の内容の見直し及び「AI に関する素養を養う科目」の開講等を踏まえ、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を目指し、カリキュラム改革を検討している。

- ・ 事業計画最終目標：＊

(3) 共通科目における理数系科目の増設

〔担当部署：教務委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：＊

(2) の科目見直しに伴い、カリキュラム改革の一環として、共通科目におけ

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

る「理数系科目」の増設を検討している。

- ・事業計画最終目標：＊

4) グローバル化の推進

(1) 外国人留学生（短期留学生を含む）の割合の増加（全学生の3～5％）

〔担当部署：入試委員会〕

- ・2022年度進捗状況：＊

2022年度の留学生は中国籍1人、タイ国籍1人の留学生にとどまった。他に在留資格のある中国籍の学生が1人在籍した。

- ・事業計画最終目標：＊

(2) 第二言語としての日本語科目の開設

〔担当部署：教務委員会〕

- ・2022年度進捗状況：100%

カリキュラムに外国語科目として、「日本語 1・2（留学生対象）」を配置している。

- ・事業計画最終目標：－

(3) 外国の大学への派遣学生（中期・長期）の割合の増加

〔担当部署：国際交流委員会〕

- ・2022年度進捗状況：100%

【2022年度目標】

英語観光学科在籍人数（1年次生を除く）に対し5％とする。

2022年4月時点英語観光学科在籍人数：170人、目標約8人

【実績】

2022年4月出発 4人（中期留学2人、長期留学2人）

2022年8月出発 4人（長期留学2人、交換留学2人）

- ・事業計画最終目標：英語観光学科在籍人数（1年次生を除く）に対し10%

(4) 海外の協定校の拡大

〔担当部署：国際交流委員会〕

- ・2022年度進捗状況：60%

【2022年度目標】

協定先を検討した（2023年、2024年に各1校ずつ協定を締結する）。

【実績】

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022年度にて達成

検討先：

レーン・コミュニティ・カレッジ（アメリカ）

オカナガンカレッジ（カナダ）

淑明女子大学（韓国）

2022 年 12 月、オカナガンカレッジ（カナダ）への協定締結を依頼。双方で締結内容を確認中である。

- ・事業計画最終目標：2024 年度までに協定校数を合計 5 校。

（5）留学支援金・奨学金制度の見直し（支給額の種類を増やすなど）

〔担当部署：国際交流委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：100%

【実績】

- ①留学奨学金 B・B' 出願資格について第 3 回国際交流委員会にて審議後、申請資格における成績及び支援額について見直した。

	G. P. A.	TOEIC	支援金額
変更前	3. 00	550	留学奨学金 B' 25 万円
変更後	2. 50	500	留学奨学金 B' 30 万円

- ②心理こども学科における支援金の申請資格における成績について、見直した。

変更前 G. P. A. 3. 00 以上、英語資格所有者（英検 2 級以上）

変更後 TOEIC 400 点以上（G. P. A. を条件に設けない）

- ・事業計画最終目標：—

（6）英語のカリキュラムの強化

〔担当部署：英語観光学科〕

- ・2022 年度進捗状況：100%

英語観光学科の TOEIC 強化に向けたカリキュラムを編成し、2022 年度入学生より実施している。

- ・事業計画最終目標：—

5）キリスト教小規模大学としての独自性の促進

（1）キリスト教研修の単位化

〔担当部署：宗教委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：10%

キリスト教国内研修（長崎・鹿児島）を企画する予定である。2024 年度からの実施を目指す。2023 年度中の現地視察と研修受け入れ機関との打ち合わせの

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

—：2022 年度にて達成

ため、現地への渡航費用を予算申請済である。

- ・事業計画最終目標：100%

(2) カトリック大学との連携

〔担当部署：宗教委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：10%

キリスト教国内研修の中に、長崎・鹿児島にあるカトリック大学を訪問する企画を考えている。

- ・事業計画最終目標：100%

(3) キリスト教的価値観を学ぶ環境の整備

〔担当部署：宗教委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：90%

- ① 図書館にキリスト教関連書籍の蔵書・DVD を増やし、学生の目に留まる工夫をする。
- ② 参加者を対象に行ったアンケートを活用し、今後の関連行事の策定に反映させる。
- ③ キリスト教にまつわる行事についてフライヤーを作成し、掲示する。
- ④ キリスト教の影響を受けた人物について学ぶ『ミッションシネマの会』を開催する。
- ⑤ 学生が不要になった教科書等を集め、それを販売。売り上げをサンタ募金(活動⑨)にする。
- ⑥ 地域貢献として、毎年開催のクリスマスキャロルに地域の方を招待する。
- ⑦ カトリックセンター主催の勉強会について案内する。
- ⑧ キリスト教行事への各クラブの参加協力を促す。
- ⑨ サンタガールズの活動として、地域の児童福祉施設との交流・ボランティアを実施する。
- ⑩ 「学内のどこでキリスト教に出会えるか」を1年次生の研修で実施する。

- ・事業計画最終目標：100%

6) 学生の社会貢献活動の推進

(1) 社会貢献活動に関する学修及び発表の機会の提供

〔担当部署：地域交流・生涯教育委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：＊

- ① 子育て支援

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ
－：2022 年度にて達成

灘区の「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業」の一環として、「海星子育てひろば」を夏から冬にかけて6日程、11組の親子対象で実施した。また、灘区児童館プログラム「なかよしひろば」にボランティアで参加した。

② キッズイングリッシュ

「キッズイングリッシュ」科目の履修生が担当教員と共に協定校の神戸市立美野丘小学校で1・2年生クラスの英語の出前授業を行った。また、キッズイングリッシュクラブの学生が神戸市内の公民館での児童英語教室出張授業を行った。

③ その他

フラ&タヒチアンダンスクラブ Pua Nani が「第12回灘区総合芸術祭」に参加したほか、バレエ部が児童養護施設とのバレエボールを介した交流、アナウンス研究会が地域コミュニティーラジオ FM MOOV に参加するなど、地域との交流や社会貢献を行った。

・事業計画最終目標：＊

7) 円滑な高大接続

- (1) 協定校等の生徒に対する英語（4技能対策、外部試験対策等）の連続講座の実施
（本学又は高校での実施で教員の参加も可。）

〔担当部署：入試委員会〕

・2022年度進捗状況：＊

新型コロナウイルス感染症の拡大の危険がなくなり、開催できなかった。

・事業計画最終目標：＊

- (2) 高校生のモチベーションアップや教員の生徒指導での難しい対応に関する心理学の講座の提供

〔担当部署：入試委員会〕

・2022年度進捗状況：＊

高校教員対象説明会で、生徒指導に関する講演会を行った。

・事業計画最終目標：＊

2. 学生支援分野

学生一人ひとりが充実した学生生活を過ごすことができるよう学生生活全般における支援を行う。また、経済的理由や障がい等による理由で、学業を続けることが困難な学生や多様な言語的文化的背景をもつ学生等が安心して学業に励み続けることができ

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022年度にて達成

る環境を整備する。併せて、卒業と同時に希望する仕事に就くことができるよう入学時から体系的なキャリア教育を大学内で連携し実施するために計画的、段階的、個別的な支援体制を整える。

1) 退学率減少のための支援体制の強化

(1) 下宿生、留学生等の交流会の定期的な実施(年6回実施)及び学生の声を聴く

〔担当部署：学生委員会〕

- ・2022年度進捗状況：80%

コロナ禍の影響で交流会は4月新入生歓迎会1回のみ実施だが、個別の支援として生理用品配付2回、食の支援(学食チケット、レトルト食品、お菓子とお茶)を3回実施した。

- ・事業計画最終目標：100%

(2) 学生サポート専門員・学生課・教務課・学生相談室・サポートルーム・保健室・担当教員(担任等)間の連携強化

〔担当部署：学生委員会、学生サポート委員会〕

- ・2022年度進捗状況：80%

配慮が必要な学生の支援に係る担当者の過重負担により、本来の業務に支障が出てきたため、2023年2月1日より学生サポート専門員(精神保健福祉士)を配置した。よりよい業務分担及び更なる連携の強化のため密に情報共有を行っている。。

- ・事業計画最終目標：100%

(3) 外部専門機関(相談機関、医療機関等)との連携

〔担当部署：学生委員会〕

- ・2022年度進捗状況：50%

神戸市大学生支援事業を委託されている「社会福祉法人すいせい」と繋がった。

- ・事業計画最終目標：100%

2) 経済的に修学が困難な学生に対する奨学金制度・授業料減免制度のさらなる支援と充実

(1) 学生課・教務課・担当教員(担任等)間の連携の強化

〔担当部署：学生委員会〕

- ・2022年度進捗状況：80%

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ
ー：2022年度にて達成

連携強化を図り学生の生活面・学修面での支援強化はできたが、本学独自の奨学金制度（例えば何かの活動に対する奨励制度や本学にゆかりのある方の〇〇基金等）の設立要望には応えることができなかった点において、奨学金の充実が課題として残った。

- ・事業計画最終目標：100%

（２）奨学生の学修状況の把握

〔担当部署：学生委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：90%

担任及び教務課と連携を強化し、出席状況・学修状況の把握はできたが、学生本人へのフィードバックが課題として残った。

- ・事業計画最終目標：100%

（３）奨学金ガイダンスの実施及び奨学生の目的意識の向上を図るための教職員による定期的な面談の実施

〔担当部署：学生委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：100%

期日までに手続きを怠っている学生、返信がない学生には何度も呼び出しをし、学生課において各学生に応じた適切な指導を実施している。

- ・事業計画最終目標：—

３）学生の満足度の向上

（１）学生アンケート

①海星教学調査及び卒業生アンケートの見直しの実施

②学生生活関連アンケート

〔担当部署：①教務委員会、②学生委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：①50%

②100%

①2022 年度から両学科で共通の内容とした。現行の 94 問は多いので、次年度の実施に向けて傾向を考察し、設問を精選する。

②学生生活関連アンケートは、春学期（7 月頃）と秋学期（2 月頃）の年 2 回、学生の困り感等について、その時々に応じたアンケート項目に修正をして実施した。

- ・事業計画最終目標：①100%、③—

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

—：2022 年度にて達成

4) ダイバーシティ化に向けた制度の策定

(1) 障がい等のある学生への支援体制の構築

〔担当部署：学生委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：90%

2021 年に学生サポート委員会を設立、以後支援体制を整備し、大きく前進している。合理的配慮については、各学生の配慮内容を学期ごとに見直しをし、支援を実施した。

- ・ 事業計画最終目標：100%

(2) 留学生への支援体制の構築

〔担当部署：学生委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：50%

① 本学以外の機関で応募できる留学生に対する奨学金制度を紹介し、相談に応じた。

② 下宿生・留学生交流会は、新入生歓迎会を対面で開催し、その後は③④など対面で会う機会を作り、該当学生の状況確認に努めた。それ以外の交流会は密を避けるため実施しなかったが、年度末に 2023 年度新入生交流会の準備会を実施した。

③ 兵庫県・神戸市に生理用品の提供申請を行い、配布した。

④ 日本学生支援機構主催の「食に対する支援」（新型コロナウイルス感染症対策助成事業）に申請し、一人当たり約 5,000 円分の食料の配布を実施した。

- ・ 事業計画最終目標：100%

(3) ダイバーシティ教育の意識啓発

〔担当部署：学生委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：50%

障がい等のある学生への支援、留学生への支援など実施はしているが、それが多様な学生への対応というダイバーシティ教育の意識啓発へと繋がったとは考えにくい。今後の検討課題である。

- ・ 事業計画最終目標：100%

5) キャリア支援の強化

(1) 低年次からのキャリア教育支援

〔担当部署：キャリア委員会〕

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ
－：2022 年度にて達成

- ・ 2022 年度進捗状況：100%

「キャリアデザイン入門」（1 年次必修）、「海星学Ⅰ・Ⅱ」（2 年次必修）内で
キャリア教育を実施した。

- ・ 事業計画最終目標：－

（2）課外活動への支援

①企業のインターンシップ

②スクールサポーター等

③クラブ活動（大学祭含む）

④その他学科の課外活動（フィールドワーク等）

〔担当部署：キャリア委員会、保育・教職委員会、学生委員会、各学科〕

- ・ 2022 年度進捗状況：①100%

②80%

③80%

④40%

①企業や団体へのインターンシップを 18 社・団体実施した。

②学生への体験活動を促す一方、採用試験時期前には試験に打ち込めるよう配
慮した。

③クラブ加入学生の減少により以前のような活動がしにくくなった。大学祭に
ついては、少数の学祭委員の活動に対し教職員の手厚い支援を実践した。

④2 年次が「灘区なかよしひろば」にボランティアで 2 日程参加した。コロナの
影響が残るなか、10 名ほどの参加があった。

- ・ 事業計画最終目標：100%

（3）神戸市内の企業との連携の推進

〔担当部署：キャリア委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：100%

神戸市内企業 3 社の学内企業説明会を実施した。

（みなと銀行、株式会社ロック・フィールド、ジイ・アンド・ジイ株式会社）

- ・ 事業計画最終目標：－

（4）企業説明会の実施

〔担当部署：キャリア委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：100%

学内企業説明会を 7 社実施した。

- ・ 事業計画最終目標：－

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

(5) 資格取得支援のさらなる充実

〔担当部署：キャリア委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：50%

推奨したい資格（ユニバーサルマナー）、他資格の実施形態について調査した。

- ・ 事業計画最終目標：100%

(6) 卒業生によるキャリアサポートメンタリング制度導入の検討

〔担当部署：キャリア委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：0%

実施可能な形態を検討する。

- ・ 事業計画最終目標：100%

6) 卒業生との連携の構築

(1) 卒業生、在学生、教職員との定期的な接点の創設及び継続的な交流の推進

〔担当部署：キャリア委員会、保育・教職委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：50%

オープンキャンパス、「海星学Ⅱ」（ピアサポート）において、卒業生から在学生にそれぞれの仕事内容を話してもらう機会を設けた。今後、大学祭においてホームカミングデーなどを開催して卒業生との交流を密にする。

教職課程履修者に対して、卒業後も合格するまで支援する体制で進めている。

- ・ 事業計画最終目標：100%

3. 研究分野

質の高い専門教育を実践するため、また、将来にわたって社会に貢献する意欲と能力を備えた人材を育成するため、さらに、地域社会と協力して地域の発展に資するための研究活動を促進する。

1) 研究環境の整備、推進、評価

(1) 教員の研究時間確保のための大学業務スリム化と担当ルールの再検討

〔担当部署：大学改革運営会議〕

- ・ 2022 年度進捗状況：＊

委員会の割り当て数を減らす工夫はしたが、研究時間の確保の方法に係る有

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

効な方策が立てられていない。本学の教育で重点を置く「超小人数教育」を是としながらも、それにより教員の研究のための時間が制約される現状もあり、継続的に検討をする。

・事業計画最終目標：＊

(2) 研究・出版助成金の支給

〔担当部署：研究委員会〕

・2022 年度進捗状況：＊

「研究助成及び補助に関する規程」に基づき制度を開設している。

・事業計画最終目標：＊

(3) 学内研究発表会の開催

〔担当部署：研究委員会〕

・2022 年度進捗状況：＊

言語文化研究所において、研究発表および論文集『言語文化研究』を発行している。

・事業計画最終目標：＊

(4) 研究成果の適正な評価システムの構築

〔担当部署：大学改革運営会議〕

・2022 年度進捗状況：＊

「研究成果」のみの評価システムについては構築できていないが、各教員の「業務履行報告書」及び各学科主任の面談により評価を行う「人事考課表」に基づき包括的に評価している。

・事業計画最終目標：＊

2) 科研費等、競争的研究資金の獲得

(1) 競争的研究資金に関する学内説明会やセミナー、公募情報の提供、提出書類作成の支援

〔担当部署：総務課〕

・2022 年度進捗状況：＊

学内説明会・セミナーに関しては、今年度研究委員会において予算化するも実施はできていない。科研費等、競争的資金の獲得を目指すために、さらなる研究環境の整備の可能性について検討をする。

・事業計画最終目標：＊

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

(2) 公的研究費の適正使用及びコンプライアンス教育の徹底

〔担当部署：研究委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：100%

「公的研究費の管理に関する規程」、「研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」、および「『人を対象とする研究』倫理規程」等に基づき、公的研究費の適正使用及びコンプライアンス教育を徹底している。

- ・ 事業計画最終目標：－

3) 研究成果の社会的還元

(1) 地域貢献を目的とした生涯教育講座、講演会の開催

〔担当部署：地域交流・生涯教育委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：＊

2019 年度は 125 名の受講であったが、2020 年度はコロナ感染防止のため中止、2021 年度からは密を避けるため受講者定員を 5 名減の 15 名としたので、受講者数はコロナ前より減少し、2021 年度は 82 名、2022 年度は 97 名であった。

- ・ 事業計画最終目標：＊

(2) 教員の学界、一般社会に対する研究成果の発信、還元を適正に評価するための評価システムの構築

〔担当部署：大学改革運営会議〕

- ・ 2022 年度進捗状況：＊

「研究成果」のみの評価システムについては構築できていないが、各教員の研究業績、社会貢献業績等にかかる「業務履行報告書」及び「人事考課表」に基づき包括的に評価している。

- ・ 事業計画最終目標：＊

(3) 公立小学校、公民館への児童英語教育（キッズ・イングリッシュ）等、現行の出張授業に対するさらなる活動促進と支援

〔担当部署：英語観光学科〕

- ・ 2022 年度進捗状況：＊

両学科共通開講の専門科目（「キッズ・イングリッシュⅠ・Ⅱ」）において公立小学校で出張授業を行っているが、2023 年度以降の継続した連携について、美野丘小学校長と約束を交わした。また、クラブ活動（Kids English）においては、

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

市内の2か所の公民館での児童英語教育活動を継続している。

- ・事業計画最終目標：＊

4) 学科横断による学際的研究

- (1) 2学科性の特色を生かした学際的共同研究の促進(ex. 心理こども学科「初等教育」と英語観光学科「英語教育」)

〔担当部署：研究委員会〕

- ・2022年度進捗状況：＊

2学科制の特色を生かした学際的共同研究について検討している。

- ・事業計画最終目標：＊

- (2) 在学生に対する研究成果の適用、一般社会に対する還元

〔担当部署：英語観光学科、心理こども学科〕

- ・2022年度進捗状況：0%

2023年度に検討し、2024年度の実施を目指す。

- ・事業計画最終目標：100%

5) 女性のキャリア形成のための研究促進

- (1) 在学生、卒業生を対象とする女性のキャリア形成に向けた、本学既存研究所等の研究支援拠点としての活用

〔担当部署：言語文化研究所〕

- ・2022年度進捗状況：＊

言語文化研究所が毎年開催する研究発表会や出版する研究論文集は、大学院に進学した卒業生が口頭または活字発表する場ともなっている。

- ・事業計画最終目標：＊

- (2) 各人の自己実現を促すための国内外他大学との連携による修士・博士課程への進学支援

〔担当部署：教務委員会、研究委員会、言語文化研究所〕

- ・2022年度進捗状況：＊

言語文化研究所は、大学院にて研究活動を希望する学生やすでに進学した卒業生が研究発表等を行い、今後の研究計画や修士論文・博士論文に生かせるなど、修士課程や博士課程への進学支援の場としての役割も担っている。

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022年度にて達成

・事業計画最終目標：＊

(3) 将来的に社会・教育界等においてリーダーシップを有する人材を育成し、各人の研究成果の社会的還元を支援するという長期計画を視野に入れた基礎の構築

〔担当部署：大学改革運営会議、言語文化研究所〕

・2022年度進捗状況：＊

言語文化研究所は、大学院に進学した卒業生の研鑽の場であることはもとより、将来的に社会・教育界等においてリーダーシップを有する人材を育成し、各人の研究成果の社会的還元を支援するという長期計画を視野に入れた教育研究支援の場という役割も担っている。

・事業計画最終目標：＊

4. 社会貢献分野

学生の学修成果及び大学の教育成果を地域社会に還元するとともに、研究を通して地域と連携し、協力して地域の発展を支える。

1) 社会人学生の受け入れ（大学の教育成果を地域社会に還元）

(1) 長期履修学生受入れの検討

〔担当部署：教務委員会、入試委員会〕

・2022年度進捗状況：＊

職に就いている、病気や障害がある等さまざまな事情により標準的な修業年限では卒業が困難な者に対し、所定の在学年限の範囲内で修業年限を延長し教育課程を履修することを認める制度については、現時点では検討していない。

・事業計画最終目標：＊

(2) 短期履修学生受入れの推進

〔担当部署：教務委員会〕

・2022年度進捗状況：＊

専門分野において特に優れた資質を有する者に対し、大学の責任ある授業運営と厳格な成績評価を前提として例外的に4年未満の在学で卒業を認める制度については、当該専門分野に係る大学院を有する大学であることが要件であるため、現状本学は該当しない。

・事業計画最終目標：＊

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022年度にて達成

2) 生涯学習事業の強化及び推進

- (1) 多様化する市民のニーズに対応するための生涯学習講座のさらなる充実（学科の特質を生かした講座など分野の拡大）

〔担当部署：地域交流・生涯教育委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：83%

2021 年度は 8 講座、2022 年度は 10 講座開講した。2023 年度は 12 講座を開講予定である。

- ・ 事業計画最終目標：年 12 講座の開催

- (2) 生涯学習講座受講生の図書館閲覧利用制度のさらなる充実

〔担当部署：図書委員会、地域交流・生涯教育委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：＊

2021 年度は、学生の学修の場を確保しつつ感染拡大防止対策の一環として、利用者を本学の学生・教職員、館長が許可した者としたこと、また生涯学習講座が半期のみの開催であったため、生涯学習講座受講生の図書館利用は 40 名に留まった。2022 年度は制限を緩和し、本学の学生・教職員等、図書館の利用規程に定める利用者としたが、半期の間は図書館の改装工事があったため、利用者は 24 名と少なかった。

- ・ 事業計画最終目標：目標利用可能者数 100 名

3) ボランティア活動の支援（学生の学修成果を地域社会に還元）

- (1) ボランティア活動を希望する学生に対する、災害支援、地域貢献等、個々の学生の関心に応じた様々な情報の提供

〔担当部署：学生委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：60%

学生は学科毎のボランティア活動に参加した。個別のボランティア活動については学内掲示板や Google クラスルーム（学年毎のクラスルームを利用）等で活動の案内をした。

- ・ 事業計画最終目標：100%

4) 一般に開かれた講演会等の充実

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ
ー：2022 年度にて達成

(1) 学内で開催する講演会の一般市民への公開

〔担当部署：地域交流・生涯教育委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：100%

2022 年度は、学内講演会（公開講座）を専任教員の担当とした。講演を動画配信したことで、一般市民への公開を広げた。（動画配信の閲覧数 113）

- ・ 事業計画最終目標：動画配信を含めた参加者数 100 名

(2) 学外での講演活動の促進

〔担当部署：地域交流・生涯教育委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：100%

明石市・神戸市・宝塚市主催の講演に加え、2022 年度は、西宮市・芦屋市・丹波篠山市・姫路市主催の講演も行った。

- ・ 事業計画最終目標：本学教員と大学連携講座を行う地方公共団体数 5 団体

5) 地域や産業界の課題に取り組むプロジェクトの推進

(1) 大学コンソーシアムひょうご神戸をプラットフォームとした地域や企業との取り組みへの参画

〔担当部署：学生委員会、キャリア委員会〕

- ・ 2022 年度進捗状況：①100%、②0%

- ① 学生交流委員会の活動取組 1, 2 においてすべて実施した。

【取組 1】大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進

〈WILL BE プロジェクト〉地元企業と連携した地域活動（みなとまつりイベント）に学生がボランティアとして参加した。

【取組 2】学生の地域活性化にかかわる取組広報の実施

学生の活動をコンソーシアムひょうご神戸のホームページで紹介した。

- ② 大学コンソーシアムひょうご神戸をプラットフォームとして会員企業×本学とのプロジェクト実施を目指す。

- ・ 事業計画最終目標：100%

5. 大学運営分野

建学の精神に則り、教学の主体性を尊重しつつ、社会からの期待に応える大学として発展し続けるため、その持続的な発展を保証する組織体制、人事制度、財務基盤を構築する。

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

1) 内部質保証の推進

(1) 教学マネジメントの確立

〔担当部署：大学改革運営会議〕

・ 2022 年度進捗状況：＊

三つの方針に基づき、本学の質的教育特徴である「超小人数教育」を行っている。「超小人数」大学であるという優位性により、「超小人数教育」推進のための教学マネジメントの土台は確立しつつある。

・ 事業計画最終目標：＊

(2) 教学 IR 体制の確立

〔担当部署：企画・IR 室〕

・ 2022 年度進捗状況：＊

各学科、委員会、部署等が保有する教学 IR 情報については、「超小人数」大学の特性を生かし共有しており、さらに、教学 IR 情報を戦略的に活用するための体制づくりを始めている。

・ 事業計画最終目標：＊

(3) 内部質保証システム自体の適切性に関する定期的な点検・評価、改善・向上に向けた取組の実施

〔担当部署：大学改革運営会議〕

・ 2022 年度進捗状況：＊

内部質保証については、「大学改革運営会議」を中心とした推進体制を構築している。内部質保証を更に有効に機能させるよう、「自己点検・評価委員会規程」と「内部質保証規程」の整合性を確認する等、再整備を進めている。

・ 事業計画最終目標：＊

2) 効率的で機動的な組織づくり

(1) 学長を支える執行部組織の強化

〔担当部署：大学改革運営会議〕

・ 2022 年度進捗状況：100%

「大学改革運営会議」を中心として執行部組織としての強化は図られている。

・ 事業計画最終目標：－

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

(2) 事務組織の適正な人事配置

〔担当部署：法人事務局〕

・ 2022 年度進捗状況：＊

2020 年度以降、7 名の自己都合退職者が発生し、組織機能の維持に迫られた。

・ 事業計画最終目標：＊

(3) 各事務部局の組織強化

〔担当部署：法人事務局〕

・ 2022 年度進捗状況：＊

各事務部局の組織強化についてはばらつきがある。

・ 事業計画最終目標：＊

3) 教職員の人事制度の見直し

(1) 教員人事政策の確立（年齢構成の適正化、教員各職の役割と任用基準の明確化）

〔担当部署：大学改革運営会議〕

・ 2022 年度進捗状況：＊

実務家教員の採用により、年齢構成の適正化に課題は残るが、年齢構成を勘案した新規採用等は徐々に進められている。教員各職の役割と任用基準の明確化は今後の課題である。

・ 事業計画最終目標：＊

(2) 教員評価制度の充実

〔担当部署：大学改革運営会議〕

・ 2022 年度進捗状況：＊

各教員の研究業績、社会貢献業績等にかかる「業務履行報告書」及び各学科主任の面談により評価を行う「人事考課表」に基づき包括的に評価している。

・ 事業計画最終目標：＊

(3) FD・SD 活動の強化

〔担当部署：FD・SD 委員会〕

・ 2022 年度進捗状況：＊

春に専任・非常勤教員対象でハラスメント防止研修会及び合理的配慮研修会を実施した。後者においては、本学の「合理的配慮ガイドライン」を配布し、配

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

慮が必要な学生の対応について、組織的に取り組む基礎を整えた。

春の研修会において今後の研修テーマに関するアンケートを実施し、その結果、夏に情報セキュリティ研修会（教職員対象）を実施した。全教職員の9割近い参加となり、アンケート結果も「よく理解できた」73.1%、「理解できた」26.9%と公表を得た。

・事業計画最終目標：＊

（４）事務職員人事計画の策定（採用、異動）

〔担当部署：法人事務局〕

・2022年度進捗状況：＊

2020年度以降、7名の自己都合退職者が発生し、組織機能の維持に迫られた。

・事業計画最終目標：＊

（５）事務職員の能力開発支援

〔担当部署：総務課〕

・2022年度進捗状況：＊

毎年一人当たり3万円の自己研鑽費の支給、日本私立大学連盟によるオンデマンド研修への参加申し込み等により支援している。今年度においては、SDの一環として、情報セキュリティ研修を集合形式で実施した。

・事業計画最終目標：＊

4）財政の健全化と安定的な経営基盤の確立

（１）認証評価結果における努力課題「大学の収支均衡：経常収支」の黒字化

〔担当部署：法人事務局〕

・2022年度進捗状況：＊

入学者数の激減に伴う学納金及び補助金の激減により財政状態は均衡を失った。

・事業計画最終目標：＊

（２）中期財政計画の策定

〔担当部署：法人事務局〕

・2022年度進捗状況：＊

収容定員数の激減やエネルギー・建築価額の高騰及び昨今の金利上昇など不安定要素が増大し、計画策定を困難としている。

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022年度にて達成

- ・事業計画最終目標：＊

(3) 入学者確保

〔担当部署：入試委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：＊

オープンキャンパス、本学での土曜進学相談会、高校や設定された会場での進学相談会、教職員による高校訪問など、様々な活動で学生確保に努めた。

- ・事業計画最終目標：＊

(4) 予算の精査・検証（支出及びその配分の効率化、費用対効果の可視化）

〔担当部署：法人事務局〕

- ・2022 年度進捗状況：＊

削減目標を掲げた予算の見直し等により支出圧縮と重点配分は達成された。

- ・事業計画最終目標：＊

(5) 財務比率の活用と目標の設定

〔担当部署：法人事務局〕

- ・2022 年度進捗状況：＊

財政状態の均衡を失った現状では、財務比率の活用や目標設定は不可能である。

- ・事業計画最終目標：＊

5) 教育研究を支える施設・設備の充実

(1) 教室等の ICT 化及び主体的な学びを促進するラーニング・コモンズの設置

〔担当部署：IT 委員会、教務委員会〕

- ・2022 年度進捗状況：100%

ラーニング・コモンズ2 教室を設置した。

- ・事業計画最終目標：－

(2) 学生生活の環境の改善に向けた施設設備の更新

〔担当部署：法人事務局〕

- ・2022 年度進捗状況：100%

2020 年度と 2021 年度において、本館、図書館棟の空調設備の更新、全教室 Wifi 化、学生貸出用ノートパソコンの設置等を行ってきたのに続き、2022 年度

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

は、2022 年度中に大学 2 号館を小学校に移管することに伴い、本館及び図書館棟の改修工事を実施した。これにより、図書館等に教室 3 室、研究室 6 室、ラーニングコモンズ 2 室、心理相談実習室 2 室、本館に体育室、クラブ室、パウダールームが新設された。

・事業計画最終目標：－

(3) 財務状況を踏まえた施設改修計画の策定

〔担当部署：法人事務局〕

・2022 年度進捗状況：100%

収容定員に見合った施設規模の適正化は、2 号館の小学校への移管により達成された。

・事業計画最終目標：－

(4) 図書館棟、2 号館の施設の適正化

〔担当部署：大学改革運営会議〕

・2022 年度進捗状況：100%

図書館棟については、教室、研究室、ラーニングコモンズ等を配置した。また、2 号館は 2022 年度中に本学院小学校に移管する。

・事業計画最終目標：－

6) 戦略的広報・情報公開の強化

(1) ブランド力強化に向けた広報の開拓

〔担当部署：総務課〕

・2022 年度進捗状況：＊

本学におけるイメージ作りや本学ならではの特徴（セールスポイント）が確立できておらず、ブランディングに必要な要素が用意できていない状況である。

・事業計画最終目標：＊

(2) ステークホルダーに対する戦略的・効果的な広報戦略の策定及び実施

〔担当部署：総務課〕

・2022 年度進捗状況：＊

大学における広報は、いわゆる入試に係るものを中心として、主に高校生に向けたものとなっており、アドミッションセンターが中心となって策定及び実施されている。その他のステークホルダーを対象とした広報は特に行っていない。

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

- ・事業計画最終目標：＊

(3) 情報公開への真摯な対応による社会から信頼される学院の実現

〔担当部署：総務課〕

- ・2022 年度進捗状況：＊

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づく教育情報の公開はもとより、公的研究費適正執行への取り組み、自己点検・評価報告書、財務情報、各種方針等、可能な限りの大学情報をホームページにおいて公開している。

- ・事業計画最終目標：＊

7) 同窓会、後援会との関係強化

(1) 同窓会との連携強化（同窓会役員との定期的な懇談会の実施、同窓会への学報の送付等）

〔担当部署：総務課〕

- ・2022 年度進捗状況：＊

大学では、同窓会室の設置、聖堂における追悼ミサの開催、構内における同窓会総会の開催など、同窓会活動に対して場所の提供を行っている。また、大学行事（入学式、卒業式、大学祭等）に積極的に参加してもらうなど、同窓会との関係性をできるだけ密になるよう心掛けている。同窓会からは、毎年学生に対して奨学金が支給されるほか、図書用に援助金を受けている。同窓会役員との定期的な懇談会の実施はしていないが、必要に応じて同窓会長と学長ほか役職者や各部署担当者とがコミュニケーションを取る環境はできている。同窓会員への学報送付については、未だ検討の段階である。

- ・事業計画最終目標：＊

(2) 後援会との連携強化（後援会役員との定期的な懇談会の実施等）

〔担当部署：総務課〕

- ・2022 年度進捗状況：＊

後援会については、学長が顧問、学生部長と大学事務長が参与となって、大学との連携を取っている。毎年 1 回役員会を開催（2022 年度は 6/4 に開催）し、各役員同士の交流を図ると共に、前年度の活動実績、当年度の活動計画等の確認を行った上で、後援会総会（2022 年度は 6/25 に開催）に臨むようにしている。

- ・事業計画最終目標：＊

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ

－：2022 年度にて達成

おわりに

これまでの自己点検・評価活動とは異なり、今年度は 2020 年に策定した中期計画の進捗状況の確認と計画自体の見直しを行った。中期計画は時代の要請に応えつつ本学の特徴を伸ばしていこうとするものであるが、新型コロナウイルスの感染という想定外の事態に見舞われたため、十分に進められず、また変更を余儀なくされる点も少なくなかった。ただ、自己点検・評価委員会には学長が属しておらず、委員会としては報告書を学長に提出して、中期計画の修正については学長と相談しながら進めていかざるを得ない、と考える。

【注】＊：数値化できないため、自己点検・評価報告のみ
－：2022 年度にて達成